

「中越地区直轄地すべり防止事業」 10年間の成果

関東森林管理局 治山課
一般職員 小柳 勝志
(元 中越森林管理署)

1 課題を取り上げた背景

中越森林管理署では平成16年10月23日に発生した新潟県中越地震による山地災害の復旧のため、平成17年度から長岡市・小千谷市の中山間地域で「中越地区直轄地すべり防止事業」を実施してきました。

これまでに総工事費120億円を投じ、全11地区で工事がすでに完了しており、地震発生から10年となる平成26年度末をもって事業が終了したことから、改めて本事業の成果について報告します。

2 具体的な取組

中越地震災害の特徴に対応した工種・工法を採用し効果的、効率的に復旧を図りました。整理すると以下のとおりです。

特徴(1) 被災地域である長岡市・小千谷市の中山間地域は第三紀層地すべり地帯であり、中越地震でも大規模な地すべりが多発

対応した工種：排土工、抑え盛土工、集水井工、ボーリング暗きょ工、杭工

特徴(2) 震源域が中山間地(丘陵地帯)を中心としており、尾根・段丘の肩部で地震動が増幅し崩壊

対応した工種：法切工(高所法面掘削機械)、法枠工(長距離・高揚程に対応したモルタル吹付)

特徴(3) 養理池、ため池が被災し、土石流化し、被害が拡大

対応した工種：アンカー工

特徴(4) 豪雪地帯であり、なだれによって斜面崩壊が再度拡大

対応した工種：なだれ防止柵工



3 取組の結果

工事が完了した地区については、学識経験者等により構成された「効果判定検討委員会」が定めた効果判定手法に従って概成判断を行い、地区毎に順次、新潟県へ施設を移管して参りました。平成26年度末に全11地区の移管が完了していますが、これらの地区では地すべりが防止される等により、崩壊斜面に植生が蘇り、周囲の森林環境と一体となって機能するとともに、溪流が安定することで土砂流出が抑制され、下流域への再度災害の防止が図られる等、安全で安心できる生活基盤の確保に貢献しています。

4 まとめ

中越地震被害の特徴に応じた工種、工法を採用することにより、効果的、効率的に復旧が図られ、昨年度末で事業を終了しました。本事業により整備された治山施設が今後とも末永く効果を発揮し、地域の方々が安心して暮らしていけることを期待しています。